

「いのち」の教育実践事例

☆尾花沢市の実践

(尾花沢小学校、常盤小学校、福原中学校)

生命の継承の
大切さに
関する教育

－ 自他のいのちの尊さ、自分らしい生き方を考える －

尾花沢市学校教育全体構想における市の教育目標の三つの柱の一つに「豊かな心の育成」があり、その中に「いのちの教育」の推進を位置付けています。以下は、教育目標の実現に向けて市内の小中学校で実践された、児童生徒がいのちの大切さや自分らしい生き方等について考える教育活動の事例です。

○ 「自分らしく生きること」を考える実践 (尾花沢市立尾花沢小学校)

- ・ 中学進学に向けて、さらに多感な時期に入る6年生が、林医師（林内科レディースクリニック）からからだの変化とこころの変化について学んだ。
- ・ 「変化は一人ずつ異なり個人差があること」「一人一人に個性があること」を知るとともに、「こころの変化やからだの変化が自分らしく生きるために必要であること」を理解することができた。

○ 「いじめについて考える 全校道徳」の実践 (尾花沢市立常盤小学校)

- ・ 日常の具体的な場面を提示し、その場面での行動がいじめになるか考えた。
- ・ 「常盤小いじめ防止基本方針」を活用していじめの定義を学び、いじめについてペアトークを行った。
- ・ 各自で「いじめ0(ゼロ)宣言」を考え、校内に掲示し「いじめは絶対しない 許さない」という意識を高めた。いじめを自分事して考えることができた。

○ 「いのちの日 読み語り会」の実践 (尾花沢市立福原中学校)

- ・ 年に3回、学年ごとに、学校運営協議会委員やPTA役員等の方を講師として読み語り会を行っている。今年度は、「医療に携わる人々」「戦争について」「この私でよし」等の様々なテーマで新聞や本、実体験をもとに話を聞いた。
- ・ 話し合いや自分自身の考えと向き合う活動を通して、人としての生き方や在り方、いのちについて考えを深めることができた。

【感想】「発達の流れをくわしく教えていただき、自分らしく、自分の体を大切に生きていこうと思うことができました。」



【感想】「言葉を発する前に一度立ち止まって考え、インターネットの利用の仕方もよく考えるようにします。」



【感想】「進路を考えていく中で自分を見つめながら、いろいろな人と関わって、相談しながら夢を決めていければと思います。」「自分自身は尊い存在で、唯一無二の大切な存在であることを学びました。」

